

令和6年度 第4回こどもまんなか・ぎふ推進会議開催結果

1 日 時

令和7年1月20日（月） 10時00分～11時30分

2 場 所

岐阜県庁舎20階 2004会議室（ハイブリッド方式（WEB会議の併用））

3 出席者

可児 亨（岐阜県保育研究協議会 会長）
木村 麻理（NPO法人山県楽しいプロジェクト 理事）
栗本 理花（連合岐阜 副事務局長）
黒野 百貴（岐阜県若者サポートステーション 就労支援員）
澤 幸子（岐阜県警察本部 少年育成支援官）
徳広 圭子（岐阜聖徳学園大学短期大学部幼児教育学科 教授）
長瀬 啓子（東海学院大学人間関係学部子ども発達学科 准教授）
藤井 奈々（弁護士）
西尾 将史（岐阜県商工会青年部連合会 会長）
堀 秀子（岐阜県ひとり親家庭等就業・自立支援センター センター長）
前田 研治（高山市こども未来部 こども政策課長）
益川 浩一（岐阜大学副学長補佐（地域連携担当）、地域協学センター長・教授）
安田 典子（NPO法人くすくす 副理事長兼事務局長）

以上13名 ※50音順（敬称略）

（県）

堀 智考（健康福祉部子ども・女性局長）
山下 靖代（健康福祉部子ども・女性局副局長）
笠井 省吾（健康福祉部 子ども・女性局 男女共同参画・女性の活躍推進課長）
堀場 敦子（健康福祉部子ども・女性局子育て支援課長）
大野 健夫（健康福祉部子ども・女性局子ども家庭課長）

4 議事

- ・ 岐阜県こども計画（案）について

5 議事録

別紙のとおり

令和6年度 第4回こどもまんなか・ぎふ推進会議・議事要旨

1 あいさつ

堀子ども・女性局長あいさつ

2 議事

岐阜県こども計画（案）について

＜説明：子育て支援課長＞

※各委員の意見等

<委員>

- ・計画の記載内容やパブリックコメントへの対応は問題ないが、「ぎふマリッジサポートセンター」や「こどもの権利擁護機関」などに関し、事業の必要性や予算の使い方について慎重に検討していただきたい。

<委員>

- ・令和8年度から「こども誰でも通園制度」が実施される。計画案への記載はどうするのか。
- ・「子育て人材支援センター（仮称）」は、現在の「保育士・保育所支援センター」がこれまでの事業を残しながら「子育て人材支援センター（仮称）」としてやっていくのか。
- ・「保育所」「幼稚園」という文言が出てくるが、「認定こども園」という言葉があまり入っていない。「児童福祉施設」と「学校」とわかれているので「認定こども園」の扱いが、保育所型、幼稚園型、幼保連携型など何型かによってどこにあてはまるのかがわかりにくい。「等」の部分でまとめているのか。
- ・保育士、幼稚園教諭、放課後児童相談員とあるが、幼保連携型では、保育教諭という立場で呼ばれているが、それを表記する必要はあるか。

<事務局>

- ・「こども誰でも通園制度」等の記載については検討する。
- ・「子育て人材支援センター」については、これまでの「保育士・保育所支援センター」としての事業は継続しつつ、放課後児童クラブ等の支援を行う機能を持たせるものである。
- ・保育所と認定こども園の表記は、ご指摘の通り「等」という表記でまとめている。保育教諭についても同様の考え方。

<委員>

- ・婚活イベントの男女の金額の差に関する意見について、主催団体は補助金等を受けていないので参加費の徴収が必要となるが、イベント参加者やマリサポ登録者も女性が少ないこともあり、女性の参加のハードルを下げるため男女の参加費に差をつけることはよく理解できる。
- ・国が昔より結婚支援に力を入れてきている。最初は出会いの場が必要だが、結婚につなげるためにはお見合いかつ交際のサポートが重要となってくる。マリサポでも出会いの場からどう結婚につなげていくか、どこに重点をおくようにするのかなど、検討の岐路に立っているのではないか。
- ・ライフデザインのコラムについて、再編成していただき、感謝している。将来像の言葉の言い回しも修正していただけてよかった。

<委員>

- ・厚労省は、ゲートキーパーに「精神疾患に関する正しい知識」については求めているのではないかと。むしろあまり知識がない方でも、大切なのは「気づき、声をかけ、話を聞いて、つなげ見守る」ということ。ゲートキーパーの定義に合わせた修正が必要である。
- ・本文と図表との整合性について問題がないか再度確認いただきたい。

<委員>

- ・「全てのこどもが権利の主体として尊重され」に修正されたことにより、「こどもがまんなか」ということが分かりやすくなった。
- ・「保育士・保育所支援センター」が「子育て人材支援センター」に変わること、幅広く支援していくことができると考える。

<委員>

- ・こども向けのフィードバックについて。「大事な意見」を「大切な意見」にしてはどうか。こども向けなので、「大切に思っているよ。」ということで「大切な」のほうがりっくりくる。
- ・この意見はしっかりと丁寧に説明してフィードバックし、市町村等にも配布して周知してほしい。概要版を当センターにも配置したり、センターLINEで発信できればと考えている。

<座長>

- ・行政的な用語より、わかりやすい言葉で伝えていくということで風潮は変わってきている。
- ・こども当事者の方々から、たくさんのコメントをいただけたのは非常に良かった。より具体的な意見等も計画に盛り込まれているところ、改めて追記をしていただい部分もある。これからこの「こども計画」に限らず様々な計画づくり、県の施策、事業づくりにおいてはこどもたちの意見を聞くという機会が増えてくるのではないかな。今回こういう形でたくさんの意見をたくさんいただけたことはよかった。ぜひしっかりとフィードバックしながら、意見の内容を認識できるような場を作っていただきたい。

<委員>

- ・高校生からのパブコメが少ない。12月から1月という実施の時期がなかったのではないかと考える。

<委員>

- ・パブコメを読んで、こどもには家庭以外、学校以外の安心できる居場所が必要だと感じた。児童館や社会教育施設などの充実がこれから求められていくのではないかな。警察で支援する対象のこどもを集めたスポーツ活動などの居場所にもなる。またその先に、困難を抱えたこどもの支援の場所にも提供でき、活動できる場所が広がっていくのではないかな。

<委員>

- ・教員が生徒と保護者の対応で疲弊していると聞く。対応策を伝えても業務的になってしまふ。定期的になぜ教員になったのか自身のキャリアの振り返りなどを踏まえるようなことも盛り込んでいけるといいのではないかな。

<委員>

- ・計画案は文字が羅列されているので、見やすい概要版が必要。県民の方にもこの計画を知っていただくためにも発信の方法も工夫が必要ではないかな。

<委員>

- ・人手不足が深刻な問題となっている中で、企業誘致をして雇用を満たす必要があるのか。雇用を生む出すために企業誘致をすることで、小規模企業の人手不足はますます深刻となる。

<委員>

- ・こども向けの文章は、こどもにもわかりやすい言い回しや文章がいい。
- ・新事業について市町村が予算要求や申請手続きをしないといけないものは早めに共有してほしい。
- ・概要版については、動画コンテンツや岐阜県由来の著名人を使うものだと市町村としても周知しやすい。

<事務局>

- ・予算的には決定していないが、市町村と協力していく事業もある。固まり次第速やかにお願い等させていただく。

<座長>

- ・計画を策定して終わりではない。それを踏まえていかに様々な取り組みを実施していくか。そしていかに知っていただくか。そのことを通して、皆さんが幸せになるということが最終的なゴールとなる。まだ始まってはいないが、計画に基づく様々な取り組みへの意見や、改善についても今後ご指導いただきたい
- ・パブリックコメントに対する委員の意見については、非常に大切な点ばかりなので、できる限り盛り込んでいただきたい。
- ・今後の施策についても、意見あったことを踏まえた上で、今後の行政活動を進めていただくというふうな視点を持ち、発展的に運営を進めていただきたい。
- ・まずは「岐阜県こども計画」を知っていただくことが非常に重要。内容がわかりやすいものを作る。また発信の方法についても意見が出た。その点を踏まえ、しっかりと進めていただきたい。